

じしん 地震に備えよう

季節：年間 時間：3時間

地震による被害を最小限にするために、私たちはどのような取り組みをすればよいのか考えてみよう。

日ごろから災害への備えを万全にし、いざというときあわてず、適切に行動できるようにしておくことが何より大切です。

準備と注意事項

- ・用意するもの：ワークシート、筆記用具、バインダー
- ・注意事項：進入禁止の表示のある箇所や、危険な崖等には近づかない。

進め方

1. 3～5人のグループに分かれる。
2. 資料を参考にして、地震に備えて自分の家でできることを調べて、ワークシートにまとめよう。
3. 調べたことをグループで話し合っ、まとめよう。

資料

資料1 「地震」災害とは？

Q 地震災害は、どうしておきますか？

A 地球の内部における地盤の強震動・変形や土砂・水の運動を引き起こすことによって生ずるものが地震災害です。
マグニチュードとは、震源断層から放出されたエネルギーの大きさをあらわす値です。震度とは、地震波が伝播してきたそれぞれの地点における地震動の強さをしめす値です。

Q 地震災害によって、どんな災害がおきますか？

A 地盤震動、液状化、津波、斜面崩壊、火災などの災害現象がおこりやすくなってきます。集中豪雨にくらべて、発生頻度はちいさいが、大規模災害をもたらしやすいのです。液状化がおきやすいのは、砂質層です。砂丘付近、旧河川敷、海岸埋め立て地、低い自然堤防などでおきやすく、山陰地方では多くみられる被害です。津波は海底下での地震がおこると、表面海水が激しく流動しておこる現象です。斜面崩壊は集中豪雨のときにくらべ、上のほうからでもくずれる可能性が高く、発生場所が限定しにくく、大規模になりやすい特徴があります。地震災害のときは、ライフライン施設（水道、電気、ガスなど）も破壊されることが多く、個人の備えも大変重要です。地震災害のときは、家屋の倒壊などにもなって火災もおきやすくなります。被害の大きさは、自然素因（地形・地盤などの土地など）と社会素因（人口・施設・防災態勢など）によっても変わってきます。



地震発生時の正しい行動

1. まず、わが身の安全を！

大きな揺れは、1分程度でおさまりますので、慌てず丈夫な家具の下に身を隠し、様子を見ましょう。



2. すばやく火の始末！

火災が発生しなければ、地震による被害はそれほど大きくなりません。使用中のガス器具、石油ストーブなどは素早く火を消しましょう。



3. 火が出たらまず消火！

万一出火したら、まず消火器や三角バケツなどの消火器具で、ポヤのうちに消し止めましょう。



脱出時の正しい行動

4. あわてて外にとび出すな！

瓦や窓ガラス、看板などが落ちて思わぬケガをする事があります。慌てて外へ飛び出すことなく落ち着いて行動しましょう。



5. 非常脱出口の確保！

揺れを感じたら、玄関などの扉を開けて逃げ口を確保しましょう。とくにマンションなどの中高層住宅では出口の確保が重要です。



6. 山崩れ、がけ崩れ、津波、浸水に注意！

山際や急傾斜地域では、山崩れやがけ崩れが起こりやすいので注意が必要です。また、海岸地帯では津波の襲来が、低地帯では浸水の恐れがありますので、気をつけましょう。



避難時の正しい行動

7. 正しい情報をつかみデマにまどわされるな！

事実の一つです。ラジオやテレビ、市町村役場、消防署、警察署などからの正しい情報に注意し、的確に行動しましょう。



8. 避難は徒歩で！持ち物は少なく！

避難するときは、必ず徒歩で避難しましょう。携帯品は必需品のみにして、背負うようにしましょう。



9. 狭い路地、へいぎわ、がけや川べりに近寄るな！

屋外にいたらビルや公園などに避難し、落下物やブロック塀の倒壊の危険地域には近寄らないようにしましょう。



10. 協力しあって、応急救護！

軽いケガなどの処置はみんなで協力しあって応急救護をしましょう。

参 考

・鳥根県 消防防災課 知識 「災害が起きたら」
http://www.pref.shimane.jp/section/shoubou_bousai/chisiki/saigai_11.html

地震災害に備えよう

日時	年 月 日(曜日)	グループ	班
時間	時 分~ 時 分	氏名	
天気		特記	気温

作業1 地震災害のときに、家の周りで危険な箇所をチェックしてみよう。
(、 ×、気づいたことを記入)

項目		調べたこと
家の周 り	大型家具	転倒・移動防止対策がしてあるか
		食器などがでないように工夫してあるか
	窓ガラス	飛び散らないようにしてあるか
		開閉がスムーズにできるか
	高所	テレビ、水槽 <small>すいそう</small> などが高い位置に置いてないか
	その他	

住んでいる地域	山、がけ	崩れそうな箇所がある地域	
	海	津波がおこることがある地域	
	砂地	液状化がおこることがある地域	
	その他		

作業2 身近な地域のハザードマップ(災害危険区域予想図)をつくってみよう。